

## 15. 柔道に関する高等学校男子生徒の意識分析 —正課体育「柔道」について—

大阪教育大学附属高等学校平野校舎 齋藤 正俊  
 (財)福岡県スポーツ振興公社 河野 和憲  
 久留米総合スポーツセンター  
 大阪心理技術研究会 船越 正康

## 15. Analysis of consciousness in senior high school : through regular curriculum “JUDO” of physical education

Masatoshi SAITO (Hirano Senior High School attached to Osaka Kyoiku University)  
 Kazunori KAWANO (Kurume Sports Center in Fukuoka : Public Corporation Promoting Sports)  
 Masayasu FUNAKOSHI (Osaka Society for Study of Psycho-Diagnostic Method)

### Abstract

The investigation with a questionnaire relative to positive or negative consciousness about Judo was carried out after the unit end of regular curriculum judo in physical education. It was limited to the only boy students in senior high school. The results of analysis were based on inductive logic.

Factor analysis to give varimax rotation from a solution by main factor method was done for 1,260 students: 3 kinds of schools×3 grades×140 students. The rates of contribution which accumulated rates of each solution were 49.3% of 5 factors regarding affirmative consciousness and 29.8% of 5 factors regarding negative consciousness. Results including analysis of variance are as follows.

#### 1. Characteristics of affirmative consciousness

1) Due to experience of Judo lessons, the affirmative consciousness was classified into 5 factors: a serious experience, realization of self-protection, refreshment after throwing, progress in skill and usefulness of *ukemi*. Two factors of serious experience and realization of self-protection occupied 71.4% of the distributed ratio totals, and they were at the core of affirmative consciousness.

2) Differences in level of consciousness increased from 22 to 25 cases after lessons, and the students enjoying school life were found out to have more affirmative consciousness. While the usefulness of *ukemi* was rec-

ognized after lessons, the senior students who experienced more lessons considered it negatively.

## 2. Characteristics of negative consciousness

1) The negative consciousness was classified into 5 factors: an evasion from distress, dislike emotion, avoidance from defeat, hardship with danger and criticism to bases. Two factors of evasion from distress and dislike emotion occupied 67.2% of the distributed ratio totals regarding negative consciousness.

2) Differences in level of consciousness increased from 11 to 29 cases. The way of students understanding judo differed according to the level of pleasure, and then, the negative way caused students to increase their negative feeling.

If we would teach the regular curriculum judo based on the students' feeling, it is necessary to recognize the feeling of evasion from distress and avoidance from defeat along with the judo practice and make a lesson plan in order to wipe away dislike emotion that rises from criticism to bases and hardship with danger. It is also necessary to set up an opportunity for students to experience refreshment after throwing in process of progress in skill, and have a serious experience which leads to recognition of usefulness of *ukemi* and self-protection. This would help students to appreciate judo who shoulder the development of life long judo and the permeation of competitive judo.

## 1. はじめに

戦後禁止状態にあった柔道は、1960（昭和25）年10月13日付文部省事務次官名<sup>22)</sup>で通知がなされ、選択教材として学校体育の授業に復活した。その後、1960（昭和35）年の学習指導要領では格技と命名され、学校現場において柔道、剣道、相撲からの選択必修となった。1989（平成元）年には格技が武道と改称されて女子の履修も可能になったが、単位数と時間数は各学校の裁量にまかされた。さらに1999（平成11）年3月に告示された学習指導要領では、スポーツ教材の中の武道に位置づけられて現在に至っている。

競技スポーツとして捉えた柔道の特性には勝負がある。必然的に勝利主義が顔を出す。柔道の創始者・嘉納の思想は精力善用にあり、自他共栄を求める。人間自身と人類社会の在り方を追求し、人が持つ心身の働きを最も有効に働かせること、自分の「栄え」のみを目的とせず、助け合い、譲り合い、融和協調して共に繁栄することを目指したのであって、競技柔道を志向したわけではない。学校における柔道の位置づけはそこにあり、日本文化としての武道の価値を認め、柔道の学習を通して調和のとれた人間形成を追求しているのである。

柔道の普及には町道場や学校体育が果たす役割は非常に大きく、強化においても同様である。普及と強化の基礎には楽しさ体験と自主的な取り組みが大切であり、学校で正課柔道や部活柔道が楽しいものであれば、いずれの柔道場面でも自主的な活動へ発展すると予想される。柔道の魅力の一つに技への関心があり、技が決まった時に味わえる爽快感がある。投技がきれいに決まると投げた方だけでなく、投げられた者も悔しさよりは空間を回転した爽快感が得られる。勝負としては負けでも爽やかを感じることができるとし、見る側としても見事な技には感嘆する。このような快感情に結びつく経験を積むことができれば、柔道に対して好感をもち選手として柔道を続け、生涯柔道に発展する可能性が生まれるのではなからうか。

本研究では柔道の楽しさを取り上げるに際して二つの段階を踏んだ。第一は「現代武道観研究」<sup>1)</sup>を参考にして、帰納論の立場から「体育の授業における印象語彙の収集」<sup>16)</sup>を行った。男

子高校生が柔道の授業を受けた感想を「楽しさ」と「いやなこと」についてを問うたものであり、柔道の競技性と技能上達に関する楽しさ体験とともに、苦痛に代表される情動次元と冬場の授業環境に拒絶反応が見られた。次に柔道に対する肯定表現と否定表現を含む76設問の質問紙を作成し、「正課体育『柔道』の楽しさに関する授業前の意識調査」<sup>17)</sup>を実施し、真剣な体験を楽しむに一方、上級生に苦痛忌避や柔道に対する否定感情の根強さが認められた。

今回の研究は、これらの結果に基づいて授業後の意識実態を明らかにしようとした。多感な高校生が柔道の授業を経験したことで楽しさの意識構造が変わるのか、授業前の否定的傾向に好転が見られるのかを見定め、今後の柔道の普及や生涯柔道の発展につながる授業の在り方を探るものである。

## II. 研究方法

### 1. 調査用質問紙

平成13年以後、帰納論の立場から作成した「正課体育『柔道』の楽しさに関する授業前の意識調査」<sup>17)</sup>票を用い、フェイスシート部分に10件の質問項目を加えた意識調査票を再構成する。

### 2. 調査

- 1) サンプル基準：国公立大学進学希望校・私立大学進学希望校・実業高校3群の男子生徒を対象とし、学年×3群×200名を基準に1800名のデータを収集する。
- 2) 対象：サンプル基準に該当する大阪府下の普通高校7校、実業高校3校、兵庫県普通高校1校、神奈川県普通高校1校の男子生徒。
- 3) 方法：学校単位の郵送により、柔道の単元終了時に行う。
- 4) 期間：平成15年6~10月。

### 3. データ処理

SPSS統計ソフトを用いる。

#### 1) 意識構造把握

アンケート回収後の回答を肯定表現44設問と否定表現32設問に分けた分離分析を行い、主因子解からバリマックス回転を施す因子分析を遂行して双方の因子解と累積因子寄与率を求める。

#### 2) 意識水準の変動

因子解の決定と解釈・命名の後、①3学校群×3学年の2要因分散分析を行い、分散の差に応じて細部分析(Bonferroni, Scheffe, Tukeyの法)を施す。②スポーツの好嫌、課外活動所属部、柔道経験、柔道の授業、体育の授業全般、学校生活、志望傾向、授業後の感想の8項目について1要因の分散分析を行う。群間差の特定は有意水準5%以下を取り上げる。

## III. 結果と考察

### 1. 授業後の意識特徴

#### 1) 肯定意識の特徴

授業後の肯定意識は、表1最下欄に見るとおり累積因子寄与率49.3%の下で解釈可能な5因子解が得られた。授業前は4因子解・42.9%であり、授業経験によって意識の明確化と細分化が進んだことになる。因子の解釈命名は因子負荷の高い設問を中心に行い、因子名の後に該当設問数と分散比を示した。分散分析の結果は表2の通り。①~⑩は分析項目の番号である。

第1・真剣体験因子・21設問、40.8%：対人競技としての柔道自体を楽しみ、勝負に対して真剣に取り組み、相手とぶつかり合うことに楽しさを感じる因子。⑩柔道の授業が楽しかった生徒

を筆頭に⑧学校生活を楽しみ、⑦体育の授業や⑥柔道の授業を楽しみにしている子、③スポーツが好きなのが真剣体験を尊重していた。⑨進路の決定しない子は真剣体験に共感するとともに、④柔道部員が正課体育の柔道を受容する成功授業の証明と言えよう。しかし、②3年生が共感するのに対して、②1・2年生が否定する傾向にあることは一考を要する。乱取・試合中心の3年生に対して1・2年生は受身や打ち込み等の基礎練習が多く、真剣体験の意義を低下させているのではなかろうか。

第2・護身実感因子・14設問、30.6%：柔道は役に立ち、護身術に成り得ることや精神的な強さが得られることで、心身両面で護身の有用性を実感した意識。⑩授業後の感想で非常に楽しかった生徒、⑦体育や⑥柔道の授業を楽しみにしている者は、護身要素に楽しさを認めていた。⑤柔道未経験者と②1年生が同様に護身要素に理解を示したことは、イメージと授業内容が重なった結果であろう。①私立大進学希望生徒は護身に価値を認めるが、国公立大進学希望者には理解が得られず否定的であった。

第3・投技爽快因子・6設問、15.0%：設問内容は投技を意味するものであり、生徒たちは投技が決まった時の「爽快」さに魅力を見出していた。①国公立・私立大進学希望者、⑨理系志望生徒に技の習得過程や乱取、試合などを経て爽快さが伝わっていた。

第4・技能上達因子・2設問、9.8%：練習した技が使いえたり、一本を取って勝利した時の充実感、技能上達や達成感を表す因子。①国公立・私立大進学希望の生徒は向上心が強いのだろうか。技を学習して習得することに積極的に取り組み、投技や固技をうまく使いえた技能上達の喜びが感じられる。⑤部活動経験者と③スポーツ好きの生徒は技の習得に自信があるのか、上達を目指していた。志望傾向では⑨文系の生徒が技能上達を楽しみにしていた。しかし、③スポーツが嫌いな子は投げやりのな否定傾向が強かった。

第5・受身有用因子・1設問、3.8%：身を守るために受身は有用であると認める因子。柔道経験のない者にとって受身は自分の体を守る必要条件である。1年生は未経験者が多く、受身中心の授業であったとしても、時間が経つにつれて重要さが認識された結果であろう。①私立進学希望者と実業高校生、⑧学校生活を楽しいと感じる子、⑩授業後の感想で普通と答えた生徒が受身の有用性を肯定していた。しかし、②2・3年生の授業経験者が否定的な点は問題である。

以上のように、男子高校生の肯定意識構造は授業後に真剣体験、護身実感、投技爽快、技能上達、受身有用の5因子解に収斂する中で、真剣体験と護身実感の2因子に分散比累計が71.4%と集中していた。先行研究<sup>5) 17)</sup>では技の魅力や投技の爽快さに関心が集まっていたが、授業後に気づく楽しさの観点として護身要素が上位になったことは、日常的に事件が報道される時代背景の裏返しとも考えられる。

意識水準差は授業前の22件から25件へ微増し、楽しみながら受身を学習して安全性へ対する理解が進んだ。その一方で上級学年の授業経験者が否定的に捉えており、上達水準に応じたカリキュラム作成が要求される。総じて肯定意識を持つ生徒は楽しさの度合いが高かった。

## 2) 否定意識の特徴

授業後の柔道に関する否定意識は、表4から累積因子寄与率29.8%の下で授業前と同様の解釈可能な5因子解が得られた。授業後は意識の変化が生じ、第5因子では授業前の態度批判から基本批判に変化した。分散分析の結果は表5に示した。

第1・苦難忌避因子・11設問、36.5%：乱取や試合で投げられた時の受身の失敗による苦痛、さらには技習得の難しさが楽しみを阻み、柔道の授業における様々な負の体験を回避しようとする因子。⑤柔道の授業に気が進まない生徒や、⑩全然楽しくなかった者は、技が難しく受身を失敗

表1 授業後の肯定意識：「楽しさ」の意識構造  
Table 1 Affirmative consciousness after lessons : Structure of "pleasure"

Factor name	Number and contents of questions	1	2	3	4	5	h <sup>2</sup>
F1 真剣体験	3. 柔道は真剣勝負と同じだから楽しい。	0.769	0.117	0.134	-0.046	0.116	0.639
	27. 柔道の良さは相手と体でぶつかりあえたことである。	0.700	0.177	0.038	-0.032	-0.059	0.528
	26. 柔道は1対1なので燃える。授業では真剣になった。	0.690	0.140	0.035	0.102	-0.087	0.515
	9. 柔道では相手とのかけひきがおもしろい。	0.687	0.119	0.110	0.121	-0.019	0.513
	16. 技がかかったことが実感できるから柔道は楽しい。	0.684	0.107	0.145	0.264	0.031	0.571
	5. 柔道は高校生の体育の教養としてよい。	0.672	0.129	0.086	-0.058	0.097	0.488
	29. いろんな技を覚えていったとき、柔道の楽しさを感じる。	0.658	0.164	0.096	0.336	0.050	0.584
	1. 柔道は全身運動ができてよい。	0.656	0.159	0.093	-0.059	0.251	0.530
	6. 柔道の試合後の解放感は何ともいえない。	0.631	0.090	0.100	0.023	-0.035	0.418
	40. 柔道では友だちとかと技のかけあいがあったとき、一番楽しい。	0.627	0.145	0.091	0.223	0.026	0.473
	10. いい試合をしたときは気分がよい。	0.616	0.060	0.134	0.330	-0.009	0.511
	33. 柔道は自分を強める。なんだか少し強くなった気がする。	0.614	0.200	0.021	0.148	0.033	0.440
	20. 投げがうまくできたときのそう快感が柔道の魅力だ	0.594	0.133	0.141	0.437	0.015	0.582
	34. 柔道の授業は自由で、自分のやり方ができるところがよい。	0.562	0.186	-0.033	0.022	-0.101	0.362
14. 覚えた技を実戦で使えたとき、喜びを感じる。	0.544	0.074	0.167	0.490	0.062	0.574	
2. 柔道は身を守るために役立つ。	0.527	0.194	-0.021	0.064	0.484	0.552	
32. 試合で自分のイメージした通りに連続技がきまったときは最高である。	0.511	0.084	0.182	0.493	0.088	0.552	
21. 柔道のよいところは礼儀を学ぶことである。	0.503	0.171	-0.045	0.110	0.171	0.325	
12. 相手を投げとばした瞬間はスカッとする。	0.498	0.034	0.182	0.447	-0.003	0.482	
31. きれいにスムーズに技をかけられたときは投げられても楽しい。	0.488	0.056	0.051	0.159	0.017	0.269	
7. 「柔よく剛を制す」の精神が柔道である。	0.467	0.087	0.064	0.105	0.081	0.247	
F2 護身実感	57. 柔道をやっていると、いざというときにやくにたつ。	0.125	0.719	0.040	0.051	0.140	0.556
	62. 柔道は護身術として自分を守る力がつく。	0.061	0.700	0.085	0.103	0.221	0.560
	69. 柔道の授業は実によい経験である。	0.156	0.694	0.214	0.000	-0.040	0.554
	73. 柔道を経験すると強い精神力が育つ。	0.134	0.677	0.078	0.022	0.007	0.483
	58. 柔道で新しい技を習得したときは本当にうれしい。	0.182	0.629	0.376	0.086	0.019	0.579
	76. 柔道では体も鍛えられる。	0.157	0.625	0.176	0.040	0.158	0.473
	60. 柔道では力をおもいきり出せるところがよい。	0.159	0.614	0.251	0.052	-0.153	0.491
	49. 柔道には他のスポーツとちがったおもしろさがある。	0.196	0.599	0.202	0.002	-0.196	0.476
	44. 体でぶつかりあい、互いに努力しときに親近感が芽生える。	0.192	0.585	0.122	0.008	-0.132	0.411
	46. 受身を覚えていると、こけたときに頭をうたなくてすむ。	0.017	0.569	0.096	0.054	0.263	0.405
	53. 先生の教え方がわかりやすいので柔道に興味をもった。	0.175	0.548	0.214	0.026	-0.081	0.384
	75. 受身でいい音がなったときは安心だ。	0.067	0.505	0.243	0.030	0.156	0.344
	41. 柔道は“殺傷”でなく“制圧”を目的とした格闘技である点が良い。	0.157	0.448	0.156	0.054	0.057	0.256
	64. 試合形式で練習をしているときが一番楽しい。	0.141	0.445	0.395	0.063	-0.116	0.391
F3	68. 技がきれいにかけた瞬間はそう快である。	0.101	0.443	0.674	0.083	0.024	0.669
	52. 自分の思い通りの技が決まった瞬間は何ともいえない。	0.123	0.432	0.662	0.150	0.014	0.663
	63. 柔道で技が決まったときの快感は何ともいえない。	0.108	0.478	0.638	0.095	0.009	0.656
	71. 柔道は一本！で勝ったときが最高である。	0.096	0.396	0.589	0.096	0.004	0.523
	47. 相手の力を利用して投げられたことは、大きな喜びである。	0.115	0.408	0.576	0.107	0.007	0.523
F4	50. 自分より大きい相手を倒したとき、技の効果を実感できる。	0.124	0.440	0.574	0.118	0.011	0.553
	23. 練習した技を実戦で使えたときは達成感がある。	0.536	0.133	0.143	0.564	0.100	0.653
F5	17. 自分の技で一本を取ったときは充実感がある。	0.508	0.072	0.190	0.562	0.036	0.616
	37. とっさのときの受身ができるようになったらよいと思う。	0.330	0.100	-0.018	0.248	0.359	0.310
Eigenvalue		8.851	6.625	3.252	2.127	0.829	21.684
Raito of variance to total eigenvalue(%)		(40.8)	(30.6)	(15.0)	(9.8)	(3.8)	(100.0)
Cumulative eigenvalue(%)		21.684	(49.3)				

F1 : Serious experience. F2 : Realization of self-protection. F3 : 投げ爽快 ; Refreshment after throwing. F4 : 技能上達 ; Progress in skill. F5 : 受身有用 ; Usefulness of ukemi.

して楽しさを感じる事ができない。授業前に苦難忌避に陥っていた3年生は、その感情を増幅していた。技能上達や真剣体験とは逆の心理であろう。

第2・嫌忌感情因子・11設問、30.7%：柔道の場面で生じる怪我の可能性、理に合わない動作や越えられない経験差に感情的反撥を示す。③スポーツ嫌い、⑦体育や⑥柔道の授業に気が進まず、⑧学校生活が楽しくない生徒は、既製感情のように否定意識が強く働いている。当然ながら、⑩授業が全然楽しくなかった者は嫌うが、④柔道部員に嫌忌感情は見られず、志望傾向では⑨文系の生徒が柔道を嫌がっていた。

第3・敗北回避因子・3設問、12.8%：試合で何度も負けが続くといやがる因子。柔道部員は意地でも負けたくないと思うのは当然として、⑩授業が楽しかった者、⑦体育や⑥柔道の授業が楽しみな生徒は、真剣に取り組んだ結果として勝負にこだわり、部員同様に負けたくない意識が現

表2 授業後の肯定意識：学校群別・学年別・項目別分散分析結果

Table 2 Affirmative consciousness after lessons :  
Results of analysis of variances distributed according to each groups and items

① Kinds of schools	国公立大進学志望校 : NPU		私立大進学志望校 : PU		実業高校 : IHS		F	P	Multiple Comparisons
Factor name	n	Means (SD)	n	Means (SD)	n	Means (SD)			
2. Realization of self-protection	420	-0.151 (1.135)	420	0.145 (1.032)	420	0.006 (1.065)	7.953	**	NPU<PU
3. Refreshment after throwing	420	0.201 (1.145)	420	0.022 (1.051)	420	-0.223 (1.205)	14.806	**	NPU>IHS, PU>IHS
4. Progress in skill	420	0.118 (1.104)	420	0.085 (1.165)	420	-0.204 (1.269)	9.428	**	NPU>IHS, PU>IHS
5. Usefulness of ukemi	420	-0.207 (1.373)	420	0.112 (1.270)	420	0.096 (1.284)	7.895	**	NPU<PU, NPU<IHS
② Grades	1年 : 1grade		2年 : 2grade		3年 : 3grade				
1. Serious experience	420	0.011 (0.885)	420	-0.187 (1.038)	420	0.176 (1.190)	12.676	**	1G>2G<3G
2. Realization of self-protection	420	0.199 (0.983)	420	-0.165 (1.046)	420	-0.034 (1.185)	12.381	**	1G>2G, 1G>3G
5. Usefulness of ukemi	420	0.408 (1.363)	420	-0.107 (1.285)	420	-0.302 (1.198)	34.284	**	1G>2G, 1G>3G
③ Like and dislike of sports	好き : L ; Like		普通 : N ; Neutrals		嫌い : D ; Dislike				
1. Serious experience	886	0.161 (1.055)	315	-0.319 (0.926)	59	-0.713 (1.024)	40.586	**	L>N>D
4. Progress in skill	886	0.036 (1.174)	315	-0.030 (1.204)	59	-0.389 (1.293)	3.681	*	L>D
④ Extracurricular activities	所属なし : N-P Non-participants		ネット型 : NS Net's sports		ゴール型 : GS Goal's sports				
1. Serious experience	700	-0.072 (1.049)	109	-0.013 (0.995)	211	0.091 (1.099)			
	個人種目 : ID Individual sports		野球 : BB baseball		柔道 : J Judo				
	63	-0.024 (1.195)	96	0.208 (1.002)	21	0.672 (0.898)			
			柔道外武道 : B ; Budo		文化部 : HS ; Human science				
			25	-0.033 (1.088)	35	0.026 (0.826)		*	N-P<J
⑤ Experience of judo	なし : N-E Non-experience		授業 : LE Lessons		部活動 : CA Club activities				
2. Realization of self-protection	417	0.100 (1.048)	700	-0.060 (1.100)	143	0.002 (1.094)	2.854	*	N-E>LE
4. Progress in skill	417	-0.063 (1.142)	700	-0.006 (1.227)	143	0.211 (1.119)	2.844	*	N-E<CA
5. Usefulness of ukemi	417	0.217 (1.359)	700	-0.144 (1.271)	143	0.075 (1.330)	10.224	**	N-E>LE
⑥ Lessons of judo	楽しみにしている : P Pleasant		普通 : N Neutrals		気が進まない : R Reluctant				
1. Serious experience	196	0.241 (1.011)	715	0.114 (0.848)	349	-0.640 (1.115)	140.109	**	P>N>R
2. Realization of self-protection	196	0.176 (1.154)	715	-0.002 (1.015)	349	-0.094 (1.170)	3.910	*	P>R
⑦ Lessons of physical training	楽しみにしている : P Pleasant		普通 : N Neutrals		気が進まない : R Reluctant				
1. Serious experience	505	0.241 (1.063)	648	-0.106 (0.970)	107	-0.493 (1.228)	29.429	**	P>N>R
2. Realization of self-protection	505	0.114 (1.110)	648	-0.077 (1.065)	107	-0.075 (1.037)	4.720	**	P>N
⑧ School life	楽しい : Pleasant		普通 : Neutrals		楽しくない : UP ; Unpleasant				
1. Serious experience	470	0.261 (0.991)	683	-0.121 (1.023)	107	-0.375 (1.266)	26.640	**	P>N>UP
5. Usefulness of ukemi	470	0.103 (1.299)	683	-0.022 (1.312)	107	-0.310 (1.383)	4.541	*	P>UP
⑨ Wish for university	理系志望 : SE Science & engineering		文系志望 : HS Human science		進学せず : NCU No wish for university				
1. Serious experience	413	-0.022 (0.980)	426	0.040 (1.155)	361	-0.093 (1.011)			
3. Refreshment after throwing	413	0.146 (1.137)	426	0.012 (1.112)	361	-0.194 (1.182)			
4. Progress in skill	413	0.014 (1.039)	426	0.110 (1.213)	361	-0.136 (1.307)			
	無回答 : NA No answer								
			60	0.425 (0.974)	4.476	**	HS<NA, NCU<NA		
			60	0.080 (1.117)	5.870	**	SE>NCU		
			60	-0.061 (1.196)	2.868	*	HS>NCU		
⑩ Impression after lessons	非常に楽しかった : VP Very pleasant		楽しかった : P Pleasant						
1. Serious experience	131	1.157 (0.876)	379	0.484 (0.720)					
2. Realization of self-protection	131	0.377 (1.271)	379	0.139 (1.032)					
5. Usefulness of ukemi	131	-0.095 (1.120)	379	0.048 (1.142)					
	普通 : N Neutrals		楽しなかった : NP Not pleasant		全然楽しなかった : NPA				
	559	-0.207 (0.761)	101	-0.838 (1.009)	90	-1.498 (1.156)	209.580	**	VP>P>N>NP>NPA
	559	-0.094 (1.012)	101	-0.208 (1.077)	90	-0.314 (1.238)	9.623	**	VP * P>N * NP * NPA
	559	0.063 (1.355)	101	-0.078 (1.586)	90	-0.367 (1.622)	2.463	*	N>NPA

\*\*...P&lt;0.01, \*...P&lt;0.05

表3 肯定意識：因子別・項目別意識水準差出現数

Table 3 Affirmative consciousness : Number of appearance of differences in consciousness level distributed according to factors and items

Items 項目	1. 真剣体験 Serious experience	2. 護身実感 Realization of self-protection	3. 投技爽快 Refreshment after throwing	4. 技能上達 Progress in skill	5. 受身有用 Usefulness of ukemi	Items : Number of appearance
① Kinds of schools		NPU<PU	NPU>IHS, PU>IHS	NPU>IHS, PU>IHS	NPU<PU, NPU<IHS	4
② Grades	1G>2G<3G	1G>2G, 1G>3G			1G>2G, 1G>3G	3
③ Like and dislike of sports	L>N>D			L>D		2
④ Extracurricular activities	N<P<J					1
⑤ Experience of judo		N-E>LE		N-E<CA	N-E>LE	3
⑥ Lessons of judo	P>N>R	P>R				2
⑦ Lessons of physical training	P>N>R	P>N				2
⑧ School life	P>N>UP				P>UP	2
⑨ Wish for university	HS<NA, NCU<NA		SE>NCU	HS>NCU		3
⑩ Impression after lessons	VP>P>N>NP>NPA	VP・P>N・NP・NPA			N>NPA	3
Factors : Number of appearance	8	6	2	4	5	25

Note on a table : The abbreviations in table 3 are the same as those in table 2

P<0.05

①：学校群 ②：学年 ③：スポーツの好嫌 ④：課外活動所属部 ⑤：柔道の経験 ⑥：柔道の授業 ⑦：体育の授業  
⑧：学校生活 ⑨：志望傾向 ⑩：授業後の感想

表4 授業後の否定意識：「いやなこと」の意識構造  
Table4 Negative consciousness after lessons : Structure of "displeasure"

Factor name	Number and contents of questions	1	2	3	4	5	h <sup>2</sup>
F1 苦難回避	51. 受身を失敗したりして痛かったときは柔道は嫌いだ。	0.696	0.128	-0.057	0.066	0.042	0.510
	65. 受身を失敗したときは柔道がいやになる。	0.652	0.132	-0.029	0.144	0.101	0.474
	45. おもいきり投げられることが柔道が嫌いになったものである。	0.645	0.172	0.023	-0.059	-0.004	0.449
	72. 柔道は、全然こつがつかめずおもしろくない。	0.602	0.192	-0.018	-0.057	0.052	0.405
	66. 柔道は体が大きい人の方が得だから不公平だ。	0.527	0.130	0.082	0.126	0.114	0.330
	48. 体重が違いすぎる相手に思いっきり投げられるのはいやだ。	0.490	0.107	0.067	0.282	0.092	0.344
	56. 柔道の勝負判定はわかりづらくておもしろくない。	0.478	0.113	-0.061	0.075	0.139	0.270
	43. 柔道では相手にけがをさせてしまうかもしれないので気が進まない。	0.459	0.147	0.047	0.067	-0.072	0.245
	70. スタミナがなかったので柔道はしんどい。	0.459	0.044	-0.006	0.135	0.036	0.232
	42. 柔道ではある程度身に付くまで、同じ基本を繰り返ししなければならぬのがいやである。	0.382	-0.005	0.004	0.096	0.358	0.284
67. 柔道で勝負にこだわることは問題である。	0.349	-0.001	0.088	0.033	-0.031	0.131	
F2 嫌悪感情	35. 柔道は何かと痛いことが多い。しかたがないけどいやだ。	0.210	0.635	-0.149	-0.026	0.160	0.497
	8. けがの可能性があるので柔道はいやだ。	0.184	0.618	-0.090	-0.090	0.032	0.433
	22. 柔道は無理矢理でも投げようとするから危険である。	0.157	0.606	0.043	0.091	-0.119	0.416
	36. 柔道の授業は素人と経験者の差が大きすぎるのでおもしろくない。	0.214	0.553	0.008	0.014	0.073	0.357
	18. 冬場の畳が冷たくて柔道は大嫌いだ。	0.113	0.485	-0.011	-0.065	0.160	0.278
	15. 力まかせの人と柔道するのは楽しくない。	0.068	0.481	0.222	0.161	-0.076	0.317
	30. 投げられてばかりだったら柔道はおもしろくないと思う。	0.150	0.402	0.303	0.071	0.248	0.342
	19. 柔道で一番いやなのはしめられたときである。	0.030	0.353	0.179	0.114	0.008	0.170
	24. マナーの悪い人がいると柔道はやる気がしない。	-0.009	0.351	0.208	0.298	-0.016	0.256
	39. 相手の柔道衣がくさかったときは柔道をする気がなくなる。	0.062	0.321	-0.002	0.126	0.301	0.214
38. 柔道の授業では自分のフォームが正しいかよく分からない。	0.046	0.228	0.025	0.185	-0.008	0.089	
F3	28. 柔道の試合で負けが何度も続いたときはいやになる。	0.113	0.329	0.626	0.012	0.106	0.524
	13. 試合で負けてばかりのときは気が重い。	0.050	0.278	0.577	-0.004	0.133	0.431
	25. けがをして柔道の練習ができないときはなげない。	-0.007	-0.102	0.336	0.053	-0.018	0.126
F4	55. 怖い投げられ方をされたとき柔道は危ないと思う。	0.261	0.120	0.037	0.466	-0.015	0.302
	61. 寝技でおさえつけられたりしたときは苦しい。	0.228	0.083	-0.052	0.402	0.124	0.238
	54. ふざけたり、ちゃんとしないうちに柔道には腹がたつ。	-0.054	-0.018	0.162	0.360	-0.027	0.160
	59. スポーツよりも柔道の授業は夏場が暑苦しい。	0.134	0.027	-0.094	0.332	0.157	0.162
F5	4. 受身の反復練習はあきがる。	0.042	0.213	0.058	0.014	0.515	0.316
	11. 乱取りが少ない授業はつまらない。	-0.032	-0.095	0.243	0.021	0.282	0.149
	74. 相手が腰が引いているときはいらいらする。	0.101	-0.025	0.044	0.186	0.198	0.087
Eigenvalue		3.486	2.929	1.220	1.028	0.876	9.539
Ratio of variance to total eigenvalue(%)		(36.5)	(30.7)	(12.8)	(10.8)	(9.2)	(100.0)
Cumulative eigenvalue(%)		9.539	(29.8)				

F1 : Evasion from distress. F2 : Dislike emotion. F3 : 敗北回避 ; Avoidance from defeat. F4 : 危険辛苦 ; Hardship with danger. F5 : 基本批判 ; Criticism to bases.

表5 授業後の否定意識：学校群別・学年別・項目別分散分析結果

Table 5 Negative consciousness after lessons:  
Results of analysis of variances distributed according to each groups and items

① Kinds of schools	国公立大進学志望校 : NPU Wish for national & public univ		私立大進学志望校 : PU Wish for private univ		実業高校 : IHS Industrial high school		F	P	Multiple Comparisons
Factor name	n	Means (SD)	n	Means (SD)	n	Means (SD)			
4. Hardship with danger	420	-0.062 ( 1.360)	420	0.288 ( 1.312)	420	-0.225 ( 1.396)	15.69	**	NPU<PU>IHS
② Grades		1年 : 1grade		2年 : 2grade		3年 : 3grade			
1. Evasion from distress	420	-0.083 ( 1.059)	420	-0.028 ( 1.073)	420	0.111 ( 1.225)	3.317	*	1G<3G
3. Avoidance from defeat	420	0.139 ( 1.169)	420	-0.140 ( 1.180)	420	0.000 ( 1.385)	5.233	**	1G>2G
4. Hardship with danger	420	0.267 ( 1.299)	420	-0.145 ( 1.394)	420	-0.122 ( 1.385)	12.17	**	1G>2G, 1G>3G
5. Criticism on bases	420	-0.263 ( 1.591)	420	0.207 ( 1.319)	420	0.056 ( 1.287)	12.28	**	1G<2G, 1G<3G
③ Like and dislike of sports		好き : L ; Like		普通 : N ; Neutrals		嫌い : D ; Dislike			
2. Dislike emotion	886	-0.053 ( 1.148)	315	0.036 ( 1.066)	59	0.598 ( 1.275)	9.307	**	L<D, N<D
3. Avoidance from defeat	886	0.092 ( 1.233)	315	-0.174 ( 1.291)	59	-0.462 ( 1.160)	9.576	**	L>N, L>D
5. Criticism on bases	886	0.099 ( 1.383)	315	-0.252 ( 1.474)	59	-0.136 ( 1.488)	7.460	**	L>N
④ Extracurricular activities		所属なし : N-P Non-participants		ネット型 : NS Net's sports		ゴール型 : GS Goal's sports			
2. Dislike emotion	700	0.043 ( 1.133)	109	0.086 ( 1.081)	211	-0.071 ( 1.129)			
3. Avoidance from defeat	700	-0.110 ( 1.255)	109	-0.080 ( 1.299)	211	0.077 ( 1.252)			
5. Criticism on bases	700	-0.116 ( 1.448)	109	-0.052 ( 1.363)		0.294 ( 1.277)			
		個人種目 : IS Individual sports		野球 : BB baseball		柔道 : J Judo			
	63	-0.243 ( 1.230)	96	0.203 ( 1.147)	21	-0.843 ( 1.228)			
	63	0.013 ( 1.292)	96	0.390 ( 1.053)	21	1.203 ( 1.048)			
	63	0.066 ( 1.211)	96	0.195 ( 1.384)	21	0.801 ( 1.625)			
		柔道外武道 : B Budo		文化部 : HS Human science					
	25	-0.192 ( 1.308)	35	-0.185 ( 0.989)			3.091	**	N-P<NS<BB>J
	25	0.307 ( 1.077)	35	-0.054 ( 1.160)			5.394	**	N-P<NS<GS<IS<HS<J, N-P<BB
	25	-0.614 ( 1.346)	35	0.016 ( 1.713)			3.963	**	N-P<GS>B<J
⑤ Experience of judo		なし : N-E Non-experience		授業 : LE Lessons		部活動 : CA Club activities			
5. Criticism on bases	417	-0.235 ( 1.444)	700	0.068 ( 1.374)	143	0.351 ( 1.457)	11.08	**	N-E<LE, N-E<CA
⑥ Lessons of judo		楽しみにしている : P Pleasant		普通 : N Neutrals		気が進まない : R Reluctant			
1. Evasion from distress	196	-0.225 ( 1.168)	715	-0.012 ( 1.057)	349	0.152 ( 1.208)	7.239	**	P<N, P<R
2. Dislike emotion	196	-0.640 ( 1.118)	715	-0.125 ( 1.007)	349	0.615 ( 1.138)	99.07	**	P<N<R
3. Avoidance from defeat	196	0.345 ( 1.279)	715	0.099 ( 1.139)	349	-0.396 ( 1.362)	28.32	**	P>N>R
⑦ Lessons of physical training		楽しみにしている : P Pleasant		普通 : N Neutrals		気が進まない : R Reluctant			
2. Dislike emotion	505	-0.142 ( 1.107)	648	0.059 ( 1.147)	107	0.313 ( 1.192)	8.885	**	P<N, P<R
3. Avoidance from defeat	505	0.161 ( 1.241)	648	-0.077 ( 1.200)	107	-0.296 ( 1.512)	8.506	**	P>N, P>R
4. Hardship with danger	505	0.122 ( 1.393)	648	-0.057 ( 1.329)	107	-0.226 ( 1.486)	4.019	**	P>R
⑧ School life		楽しい : Pleasant		普通 : Neutrals		楽しくない : UP ; Unpleasant			
2. Dislike emotion	470	-0.172 ( 1.132)	683	0.083 ( 1.105)	107	0.227 ( 1.317)	9.367	**	P<N, P<UP
3. Avoidance from defeat	470	0.136 ( 1.244)	683	-0.042 ( 1.207)	107	-0.330 ( 1.486)	6.958	**	P>N, P>UP
4. Hardship with danger	470	0.082 ( 1.366)	683	-0.010 ( 1.364)	107	-0.297 ( 1.419)	3.382	*	P>UP
⑨ Wish for university		理系志望 : SE Science & engineering		文系志望 : HS Human science		進学せず : NCU No wish for university			
2. Dislike emotion	413	-0.022 ( 1.117)	426	0.113 ( 1.130)	361	-0.057 ( 1.168)			
3. Avoidance from defeat	413	-0.025 ( 1.198)	426	0.139 ( 1.248)	361	-0.164 ( 1.292)			
4. Hardship with danger	413	0.113 ( 1.359)	426	0.008 ( 1.355)	361	-0.178 ( 1.371)			
						無回答 : NA No answer			
					60	-0.310 ( 1.176)	3.222	*	HS>NA
					60	0.168 ( 1.311)	4.278	**	HS>NCU
					60	0.229 ( 1.492)	3.546	*	SE>NCU
⑩ Impression after lessons		非常に楽しかった : VP Very pleasant		楽しかった : P Pleasant		普通 : N Neutrals			
1. Evasion from distress	131	-0.258 ( 1.387)	379	-0.040 ( 1.063)	559	0.025 ( 1.056)			
2. Dislike emotion	131	-0.580 ( 1.328)	379	-0.296 ( 0.957)	559	0.096 ( 0.990)			
3. Avoidance from defeat	131	0.601 ( 1.401)	379	0.249 ( 1.152)	559	-0.112 ( 1.126)			
4. Hardship with danger	131	0.238 ( 1.464)	379	0.153 ( 1.311)	559	-0.065 ( 1.355)			
5. Criticism on bases	131	-0.071 ( 1.557)	379	-0.190 ( 1.352)	559	0.099 ( 1.388)			
				楽しなかった : NP Not pleasant		全然楽しなかった : NPA Not pleasant at all			
	101	0.086 ( 1.196)	90	0.294 ( 1.203)	3.623	**	VP<NPA		
	101	0.500 ( 1.305)	90	0.934 ( 1.353)	40.101	**	VP<N, VP<NP, VP<NPA, P<N<NP		
	101	-0.481 ( 1.294)	90	-0.685 ( 1.504)	24.557	**	VP>P>N>NP, N>NPA		
	101	-0.274 ( 1.263)	90	-0.282 ( 1.590)	4.480	**	VP>NP, VP>NPA, P>NP		
	101	0.280 ( 1.497)	90	0.000 ( 1.496)	3.334	**	P<N, P<NP		

\*...P&lt;0.01, \*\*...P&lt;0.005



表6 否定意識：因子別・項目別意識水準差出現数  
**Table6 Negative consciousness : Number of appearance of differences in consciousness level distributed according to factors and items**

項目 Items	1. 苦難忌避 Evasion from distress	2. 嫌忌感情 Dislike emotion	3. 敗北回避 Avoidance from defeat	4. 危険辛苦 Hardship with danger	5. 基本批判 Criticism on bases	Items : Number of appearance
① kinds of schools				NPU<PU>IHS		1
② Grades	1G<3G		1G>2G	1G>2G, 1G>3G	1G<2G, 1G<3G	4
③ Like and dislike of sports		L<D, N<D	L>N, L>D		L>N	3
④ Extracurricular activities		N-P・NS・BB>J	N-P・NS・GS・IS・HS<J N-P<BB		N-P<GS>B<J	3
⑤ Experience of judo					N-E<LE, N-E<CA	1
⑥ Lessons of judo	P<N, P<R	P<N<R	P>N>R			3
⑦ Lessons of physical training		P<N, P<R	P>N, P>R	P>R		3
⑧ School life		P<N, P<UP	P>N, P>UP	P>UP		3
⑨ Wish for university		HS>NA	HS>NCU	SE>NCU		3
⑩ Impression after lessons	VP<NPA	VP<N, VP<NP VP<NPA P<N<NP	VP>P>N>NP N>NPA	VP>NP, VP>NPA P>NP	P<N, P<NP	5
Factors : Number of appearance	3	7	8	6	5	29

**Note on a text :** The abbreviations in table6 are the same as those in table5.

P<0.05

①：学校群 ②：学年 ③：スポーツの好嫌 ④：課外活動所属部 ⑤：柔道の経験 ⑥：柔道の授業  
 ⑦：体育の授業 ⑧：学校生活 ⑨：志望傾向 ⑩：授業後の感想

れたのであろう。③スポーツ好きや⑧学校生活を楽しむ子たちも同様である。②1年生の回避傾向は乱取や試合がないので、他のスポーツ経験によるものと考えられるが、⑨文系志望者には嫌忌感情と同様の敗北回避の気持ちが強かった。一般的に勝負で勝ちたいと思うのは当然であり、敗北回避因子が8項目で認められたことは勝利志向の裏返しと見てよい。

第4・危険辛苦因子・4設問、10.8%：柔道における危険性や授業場面での辛苦を認識した因子である。①私立大進学希望者、⑨理系志望生徒、⑧学校生活が楽しく感じる生徒、⑦体育の授業が楽しみな者、⑩授業後に楽しかったと感じた生徒が、積極的に授業に参加しながら怖い投げられ方をしたのか、危険辛苦を実感していた。②1年生は受身や基本の段階から柔道は危険や苦しさを伴うものと認識していた。

第5・基本批判因子・3設問、9.2%：学習過程で受身や基本の反復に終始して乱取の少ない授業を批判的に捉えていた。④柔道部員、⑤部活動経験者、②2・3年生の経験者たちは乱取を求め、③スポーツ好きの生徒は、技の習得や運動欲求に対する意識が高いせいか基本中心の授業に批判的であった。逆に②1年生と⑤未経験者はこれからの学習を意識してか、基本は大切なものと考えて批判的ではない。⑩授業後の感想で楽しかった生徒は技を学ぶためには基本を身につければならないと思っていた。

以上のように、否定意識は肯定意識と同様の5因子解：苦難忌避、嫌忌感情、敗北回避、危険辛苦、基本批判因子に収斂した。それらの中では受身の苦痛を中心に苦難忌避と嫌忌感情が中核をなし、分散比累計は67.2%を占めていた。これらは実際に柔道の授業を経験し、他のスポーツ体験との比較によって意識されたものであろう。意識水準差は表6に見るとおり授業前の11件から29件に増加し、授業経験によって意識分化が進んだ。中でも⑩授業後の感想では全ての因子に差が認められ、楽しかったか否かの感情が柔道の受け止め方を色付けていた。

これからの授業を考えると、真剣体験、護身実感・投技爽快因子に楽しさの度合いが高かったため、①受身の学習で技の学習も合わせて指導することや②学習段階に合った乱取や授業独自

の試合規定を設け、③一本勝ちを基本とした勝利体験の機会を増やして、楽しさを強く印象づける授業づくりが必要であろう。これらの肯定意識に基づく改善の上に、否定意識については柔道場の畳を弾力性のあるものに変えるなど①施設の整備や②体重を考慮したグループ学習を試み、授業導入時に③勝負に対する武道の考え方や④護身と安全性を体験させれば、柔道への理解や普及が進み、生涯柔道の発展につながるであろう。

#### IV. 要約

男子高校生を対象として帰納論の立場から、正課体育柔道の単元終了後に柔道の楽しさに関する意識調査を実施した。学校区分3群×学年3群×140名、計1260名を対象として、主因子解からバリマックス回転を施す因子分析を行った。解釈可能解と累積因子寄与率は、肯定意識5因子49.3%、否定意識5因子29.8%であった。分散分析を含めた結果は以下の通りである。

##### 1. 肯定意識の特徴

1) 授業を経験したことによって意識の分化が進み、寄与率の%順に真剣体験、護身実感、投技爽快、技能上達、受身有用の5因子解が得られた。真剣体験と護身実感の2因子が分散比累計71.4%を占め、肯定意識の中核をなしていた。

2) 意識水準差は授業前の22件から25件へ微増し、学校生活が楽しい生徒の肯定意識が高かった。授業後に受身の有用性が理解される一方、授業経験の多い上級学年が否定的に捉えていた。

##### 2. 否定意識の特徴

1) 順に苦難忌避、嫌忌感情、敗北回避、危険辛苦、基本批判の5因子解に収斂し、苦難忌避と嫌忌感情の2因子で否定意識の分散比累計67.2%を占めていた。

2) 比較群間の意識水準差は11件から29件に増加し、楽しさの認識によって柔道の捉え方が違っていった。授業前に苦難を忌避する3年生は好転が見られず、その感情を増幅していた。

生徒の心情に即した正課柔道では、柔道実践に伴う苦難忌避と敗北回避の心情を認め、基本批判や危険辛苦に発する嫌忌感情を払拭する授業案の作成が必要である。さらに技能上達の過程で投技の爽快感を体験し、受身の有用性と護身の認識につながる真剣体験の場を設定する。そこから生涯柔道の発展や競技柔道の普及を担う生徒たちの柔道認識が育つのではなかろうか。

#### 参考文献

- 1) 船越正康：武道の特性と指導上の問題点について—現代武道観研究の立場から、武道学研究, 12-1, 111, 1980.
- 2) 船越正康：柔道に関する因子分析的研究, (二) 高校生男子の意識特徴, 柔道, 62-4, 68-72, 1991.
- 3) 船越正康：柔道に関する因子分析的研究, (三) 中・高等学校全国大会出場者について, 柔道, 62-11, 59-64, 1991.
- 4) 船越正康：柔道に関する因子分析的研究, (六) 国際比較—フランス編, 柔道, 67-6, 92-97, 1996.
- 5) 船越正康ほか：指導にともなう柔道に関する意識変容の研究—高校生の正課体育について—大阪武道学研究, 8-1, 1-11, 1998
- 6) 賀川昌明：体育授業における楽しさの要因分析—その因子構造の検討—, 徳島大学研究紀要, 13, 11-30, 1980.
- 7) 賀川昌明：体育授業における楽しさの要因分析—その因子構造の検討— (2), 徳島大学研究紀要 15, 1-17, 1982.

- 8) 石村貞夫：spssによる統計処理の手順，第3版，東京図書，2002.
- 9) 岩原信九郎：教育と心理のための推計学，日本文化科学社，168-169，1991.
- 10) 海保博之：心理・教育データの解析法10講，第11刷，福村出版，150-168，1996.
- 11) 春日 俊ほか：柔道に関する意識の因子分析的研究（3）—中・高等学校全国大会出場者の意識分析—，武道学研究，22-2，195-196，1989.
- 12) 国立国語研究所：分類語彙表，第15版，秀英出版，1973.
- 13) 近藤英男ほか編集：新世紀スポーツ文化論，岡澤祥訓；生涯体育・スポーツの実践者の育成をめざした体育授業—運動有能感の視点から—，タイムス，大阪，273-289，2001.
- 14) 本村清人編者、坂田敬一、鮫島元成、磯村元信ほか：新しい柔道の授業づくり，大修館書店，12，2003.
- 15) 日体協スポーツ科学委員会：コーチングの実態に関する調査報告，1967.
- 16) 齋藤正俊ほか：正課体育における柔道の語彙収集—高校生男子の場合—，大阪武道学研究，12-1，17-27，2003.
- 17) 齋藤正俊ほか：正課体育「柔道」の楽しさに関する授業前意識調査—高等学校男子生徒の意識分析から—，大阪武道学研究，13-1，1-10，2004.
- 18) 佐々木武人ほか：現代柔道論—国際化時代の柔道を考える—，大修館書店，54-59，1993.
- 19) 杉原 隆：心理学から見た運動の楽しさの構造，学校体育，94-9，日本体育社，10-13，1994.
- 20) 体育心理学実験指導研究解編：体育心理学実験実習概説，大館書店，114-120，1981.
- 21) 高橋建夫ほか：体育科教育学入門，大修館書店，39-46，2002.
- 22) 竹内善徳ほか：柔道の視点—21世紀へ向けて—，道と書院，東京，66-77，78-85，86-95，2000.
- 23) 田中敏：実戦心理データ解析，7刷，新曜社，213-255，2002.
- 24) 滝 省治ほか：遠泳についての因子分析的研究—「水への適用」調査票からみた児童の意識変化—大阪教育大学紀要第10部門第30巻，第1，2号，32-33，1981.
- 25) 和田尚：子供の発達と陸上競技（運動）の楽しみ方，学校体育，9，25-31，1981.
- 26) 和田尚：スポーツの楽しさに関する考察，京都体育学研究第3巻，1988.